

読書の秋、本の読み方を考える

—新聞もどんどん読もう—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。

開倫塾の塾長の林明夫です。

今日も開倫塾の時間を聞いて頂いてありがとうございます。

2. このたび、小泉純一郎内閣総理大臣がした、内閣改造で今回もまた地元から、森山真弓法務大臣が誕生致しまして、非常にありがたいなと思います。森山先生のようなしっかりした方が法務大臣という職を全うして頂ければ、日本の法秩序も守れるのではないかと思います。

森山先生には私は非常に印象深いことがございます。かつて、「今、中学を考える」という栃木県経済同友会の新世紀経営研究会で副会長をやっていたとき、シンポジウムがありました。

「中学校問題はなぜ起こったのですか。」

と私がお伺いしましたら、森山先生が「GHQ が占領政策をひき、その一環として、新制中学を作るということがきまった。あまりにも準備期間が少なくて、形だけ作ってしまった。そのツケがいまでものこっているのですよ。」

ということを教えて頂きました。物事を行う時は、慎重に物を考えて、一つの仕組みを作った方がいいなという思いがそのとき致しました。

中学はだいぶ落ち着いてきましたけれども、まだまだ根本的なところで問題を残しています。そうであるなら、また根本的なことから、教育基本法をはじめとして、中学校の制度等、考え直すべきかと考えます。皆さんが意見を出し合っている学校を作った方がいいのかなと思います。森山先生には頑張って頂きたいと思います。

3. 今日は 10 月も第 2 週、読書の秋です。そこで読書のポイントをお話しします。私がお勧めす一つのやり方は、書き抜き読書ノートを作って頂くことです。その話をさせて頂きたいと思います。だんだん秋が深まっていきますので、これから先、部活も早く終わります。ですから、できれば、読書に励んで頂きたいと思います。今のお子さんは TV やコンピューターの前に座ることが多く、なかなか読書を致しません。ただ、学年相応、年齢相応のすばらしい読み物が、日本国中、それから世界には沢山ありますので、是非、質の高い読書をして頂きたいと思います。

4. よい文学作品というのは、又、文学に限らずいろいろな書物というのは一つの文化です。書物はその国の文化そのものですから、特に文学の場合は、その文章をじーっと読んでみると、特に文学の場合は画像が心の中に浮かんできます。次の文章を読みますと、また画像、絵が心に浮かんでき

ます。3 つ目の文章も同様に画像が浮かんできて、浮かんだ画像がどんどん繋がって、動き始め、あたかも映画を見ているような形になる。このような文章がエッセイとか小説のいい、すばらしい文章ではないかと、私は思います。

5. 私は、志賀直哉が大好きで、いろいろな作品を読んでいます。志賀直哉の作品などではそういった形が多いなと思います。良い作品を想像力をたくましくしてじっくり読み込むということは、とてもすばらしい、興味が尽きない。声を出して読むとまたすばらしい。とても響きが良くて、読んでいてうっとりと気分がよくなるというのも、良い作品の一つの特色です。ですから、一日にたとえ十分でもいいですから、気に入った作品を声を出して朗読なさることを、まずお勧めします。できたら、読み終わりましたら、気に入ったノートに、「書き抜き読書ノート」という題を付けて頂いて、そのノートに読み終わって気に入った本の一行だけでもいいですから筆記なさることをお勧めします。少ししっかりしたノートでしたら、何十年も使えますので、絶えずこの「書き抜き読書ノート」を読み返して頂ければ、一生の宝物になります。それだけでなく、ずーっと読んでいて気に入っている訳ですから、自分の人格のもと、基礎を作り上げる道具の一つになると思います。これを小さなお子様の頃から是非お試し頂ければありがたいなと思います。
6. 小さなお子様を持つ皆さんは、お父さん、お母さんに限らず、お祖父ちゃん、お祖母ちゃんも、親戚の子にでも、お子さんが大好きな作品を何十回、何百回もゆっくりと読んでお上げになるとすばらしい。それで、お子様が気に入ったところを一行でもいいですから、そのノートにちょっと書いておいてあげると、そのお子様の心に染みて、人格の基礎になるというように思います。ですから、これから先のすばらしい秋という季節を活用して頂いて、ゆっくりお子様に本を読んで頂き、気に入ったところを一行だけでいいですから、「書き抜き読書ノート」という形で筆記して頂く、それを一生の宝物にして頂いて、繰り返し、繰り返し読んで頂く、そんなことをお勧め致します。
7. そんな形で是非ノートを取りながら読んで頂きたいのですが、もしできましたら、新聞、下野、毎日、朝日、読売、日経といろいろあると思いますが、お家でとっている新聞を、できれば一面からゆっくりゆっくり読んで頂いて、それで考える力、社会を見る力を育てて頂ければと思います。例えば下野新聞でしたら、平和塔というコラムがあります。毎日毎日論説委員の方々が熱心にお書きになっているコラムです。そのコラムを読みましたら、その中で気に入ったところを「書き抜き読書ノート」に一行でいいですから、書き写して読まれると、また世の中の見方が違ってくる。朝日新聞でしたら、「天声人語」、毎日新聞では「余録」、読売新聞でしたら、「編集手帳」、産経新聞は「産経抄」、日経新聞は「春秋」です。これらのコラムはその新聞社で一番文の達つ方、文章のうまい方、感受性の強い方が書いています。是非新聞のコラムもよんで頂きければと思います。
8. 最後になりましたが、車を運転している方は、前の車に追突しないように、くれぐれも車間距離を十分お離しになって運転して下さい。そうすれば、2 台前の車が急停止して、皆様の前の車がぶつかっても、皆さんの車はぶつからないで済みます。皆さんの後ろの車も事故から免れます。是非、車間距離だけは十分お離しになって車を運転して下さい。